

蒲生俊文氏寄贈図書（目録）

解説

蒲生俊文（がもう・としぶみ、1883～1966年）は日本における安全運動（とくに労働災害防止運動）の先駆者。東京電気（現・東芝）での社内安全運動を皮切りに、内田嘉吉が設立した安全第一協会をはじめ、内務省産業福利協会や協調会などで労働安全運動を主導し、戦後は自宅で日本安全研究所を開設するなど、その生涯を労働災害防止のための社会的啓蒙活動に捧げた。ここに所蔵する雑誌『安全第一』は、企業内ではなく社会に向けて本格的に安全運動に取り組んだ最初の安全運動団体・安全第一協会が毎月発行した機関誌の原本で、安全運動の誕生の歴史を知ることができる一次資料で、他の図書館には収蔵されていない極めて貴重な資料。蒲生俊文の記事も多数掲載されている。同資料は蒲生俊文が所蔵していたものを孫の蒲生俊敬氏から寄贈されたものである。

資料内容

安全第一協会の機関誌『安全第一』

資料数

24冊（4巻綴じ）/解説あり（資料の他に、「蒲生俊文の著作目録」「蒲生俊文小伝」「蒲生俊文、人と人生」の解説3点を添付）

発行年

1917年（大正6年）4月～1919年（大正8年）3月